



婦人科健診項目の解説

婦人科内診所見

検査項目	意義
子宮筋腫	子宮にできるコブで良性の腫瘍です。大きくなると過多月経や月経痛、便秘、頻尿などの症状がみられます。 今回初めて子宮筋腫疑い・子宮筋腫の所見があった方は子宮がん検診では病気の診断には至らないため、専門医を受診し詳しく検査されることをお勧めします。
子宮内膜症	子宮内膜組織が本来の場所である子宮内腔以外で増殖して生じます。 今回初めて子宮内膜症疑い・子宮内膜症の所見があった方は子宮がん検診では病気の診断には至らないため、専門医を受診し詳しく検査されることをお勧めします。
カンジダ膣炎	おりものの異常を起こす病気の中で最も多い感染症です。軽いカンジダ膣炎の場合は自然に治ってしまうこともあります。ただ、おりものが多量に出たり、強い痒みなどの症状がある場合は、早めに専門医を受診しましょう。
トリコモナス膣炎	トリコモナス原虫による感染症です。膣内だけでなく、尿道や膀胱に感染すると、頻尿や排尿時の痛みなどの症状を引き起こすこともあるため、早めに専門医を受診しましょう。
ポリープ	粘膜が増殖してできたキノコ状のやわらかい突起のことをいいます。子宮にできるポリープは子宮頸管ポリープと子宮内膜ポリープがあります。

子宮頸がん検診(細胞診)所見

ベセスダシステム	従来のクラス表示	意義
NILM	クラスI・II	正常な細胞
ASC-US	クラスII・IIIa	異形成と言いきれませんが、細胞に変化があります。
ASC-H	クラスIIIa・IIIb	高度異形性の可能性があります、確定できません。
LSIL	クラスIIIa	HPV感染や軽度異形成と考えられます。
HSIL	クラスIIIa・IIIb・IV	中等度異形成・高度異形成・上皮内がん(早期がん)と考えられます。
SCC	クラスV	明らかな扁平上皮がんと考えられます。

乳がん検診所見

検査項目	意義
腫瘍	のう胞や線維腺腫と断定できないものの総称です。非腫瘍性のものと、腫瘍性のものがあり、腫瘍性の場合は悪性と良性のものがあります。
乳腺症	乳腺に生じた経年変化を総称したもので、乳腺に様々な変化が起こり、乳がんとの鑑別が必要なものもあります。
のう胞	液体が充満した袋状のものです。乳腺症でよく見られます。
線維腺腫	良性のしこり(腫瘍)です。若年者に多く、乳がんとの鑑別が難しい場合もあります。
石灰化	乳管からの分泌物が結晶化したところにカルシウムが沈着したものなどです。

マンモグラフィーカテゴリー

検査項目	意義
カテゴリーⅠ	異常なし
カテゴリーⅡ	明らかに良性と診断できる所見です。
カテゴリーⅢ	良性の可能性が非常に高いですが、悪性も否定できません。
カテゴリーⅣ	悪性の可能性が高い病変で、細胞診や生検も含めた精密検査が必要です。
カテゴリーⅤ	ほぼ乳がんと考えられます。